モノづくり日本会議 通常総会

研究会・シンポ 多彩な活動

モノづくり日本会議は11月20日都内で、第6回通常総会を開いた。また日刊工業新聞社と共催する「2013年㊙モノづくり部品大賞」の贈賞式も行った。通常総会では同会議の12年度（12年10月―13年9月）の収支・事業報告と、13年度（13年10月―14年9月）の事業計画・予算が原案通り承認された。今回10回目となる部品大賞贈賞式では東芝テック「消せるLoopsトナーと低温定着器ユニット」に「大賞」を贈り、鈴木護東芝テック社長が受賞した。このほかモノづくり日本会議共同議長賞、ものづくり生命文明機構理事長賞、日本力（にっぽんぶらんど）賞、10周年記念賞など合わせて45件に各賞を贈った。

モノづくり日本会議第6回通常総会は2012年度の事業活動・収支報告を審議した後、13年度の事業計画案・事業予算案について審議した。冒頭、井水治博日刊工業新聞社社長が「前身のモノづくり推進会議から発展的に改組・改称した当会議の事務局を務めている。わが国のモノづくりの競争力強化に向けた具体的な方策を検討し、その成果を共有化するための取り組みを進めている。今後の活動拡大に向け十分な審議をいただきたい」とあいさつした。審議に先立ち出席者の中から、議長にモノづくり日本会議共同議長である日立製作所の庄山悦彦相談役を選んだ。

モノづくり日本会議通常総会

新ビジネスの可能性探る

12年度の活動としてはまず海外から講師を招いて春・秋に開いた2回のシンポジウムの盛況が報告された。4月開催の「㊙モノづくりカンファレンス　製造業革命『メイカームーブメント』」はモノづくりの現場で注目を集めている3Dプリンターの活用などについて、「個人によるモノづくり」を提唱する米国マサチューセッツ工科大学のニール・ガーシェンフェルド教授らを招き、ICTとモノづくりが融合した3D技術の可能性を検証した。

また新設したモノづくり力徹底強化検討会の一環として、9月に「モノづくり産業にとってイノベーションをもたらすモデルベース開発と」は」と題し、欧米で脚光を浴びる開発設計手法「モデル・ベースド・システムズ・エンジニアリング（MBSE）」の第一人者であるシステム工学国際協議会（INCOSE）フェローのサンフォード・フリーデンタール氏のほか、国内自動車メーカー各社の設計開発担当者らを招いて大規模なシンポジウムを行った。

またネイチャー・テクノロジー研究会では「2030年の『心豊かなライフスタイル』～未来のあたりまえを考える」をテーマに幅広い年代層からライフスタイルのアイデアを募集するコンテストも創設し、国内外から376件の応募があった。

トヨタ生産方式の生みの親である大野耐一氏にゆかりの深い張富士夫トヨタ自動車会長（当時。現名誉会長、モノづくり日本会議共同議長）らが登壇した「大野耐一生誕100年記念フォーラム」（12年10月）、モノづくりの楽しさを子供たちに知ってもらうためのワークショップイベント「モノづくり体感スタジアム」（3月）も大きな反響を得た。

このほか地熱発電、燃料電池、海洋エネルギー、バイオマスなどを各回取り上げた新エネルギー促進検討会、植物工場の普及などをテーマとする農商工連携勉強会、介護ロボットや災害対応ロボットなどを検討したロボット研究会、高等専門学校と産業界の連携やグローバル展開する企業の取り組みなどを紹介した人材育成研究会、グローバルサプライチェーンリスク分析委員会などの活動を報告した。

13年度も「グローバル競争力強化関連事業」「新産業・ビジネス創出／ビジネスモデル構想力検討事業」の大きなテーマのもと、各事業を拡充する。グローバル競争力事業のうちモノづくり力徹底強化検討会は今年度も最先端のモノづくりのあり方を探るために、タイムリーなテーマでシンポジウムなどを開く予定。新産業事業ではネイチャー・テクノロジー研究会、農商工連携勉強会、ロボット研究会などで、新たなビジネスの可能性を探る。

モノづくり日本会議 共同議長
（日立製作所 相談役）
庄山 悦彦 氏

イノベーション起こす投資を

このところ少し暗かったイメージの日本経済が、アベノミクスの登場以降だんだん明るくなってきているように思う。しかし、お金が回るだけではなかなかよくなるわけではない。モノづくり日本会議会員企業をはじめとする企業各社、あるいは個人がそれなりの投資をして、イノベーションを起こしていかなければならない。その意味で、モノづくりの未来を考えようという活動を継続的に続けていくことは、より一層重要な時期に差し掛かっている。これまで続けてきた日本会議の活動、それから今後の方針についても会員一同しっかり考え、さらなる発展につなげたい。

強靭なサプライチェーン構築

大手・中小 リスク対策必須

GSC体系化で調査事業報告書

モノづくり日本会議サプライチェーン強化検討会は、製造科学技術センターのグローバルサプライチェーン（GSC）リスク分析委員会と共同で、「新創成ものづくりのグローバルサプライチェーンの体系化調査事業」報告書をまとめた。サプライチェーンのグローバル化に伴って増大するリスクに対応するために、日本企業各社がサプライヤーの一員としてそれぞれ取り組んでいる、サプライチェーンリスクマネジメント（SCRM）の実情を明らかにするとともに、今後進めるべきSCRMの方向性を探ったもの。とくに中小企業からのヒアリングにも力を入れ、GSCを支える日本の中小の姿を浮き彫りにした。

モノづくり日本会議と製造科学技術センターが昨年まとめた「安心・安全を支えるグローバルサプライチェーン調査」に続くもの。高田祥三早稲田大学創造理工学部教授を委員長に、日本会議会員各社からも委員を募り、3月から調査事業を始めた。

前年度の調査は東日本大震災やタイの洪水といった自然災害によってGSCがいったん停止したケースを取り上げ、これらが迅速に復旧した状況を、日本企業の取り組み例などを挙げつつまとめた。今回はこれまでの経験を踏まえて日本企業がSCRMをどう進めているか調べることが主眼。それによると主に大企業はそれぞれの企業特性を反映して独自にリスク対策を進めていることが明らかになった。

日本の大手製造業各社は中国およびアジアでの海外生産活動の増加傾向が続いており、当該地域を巻き込んでのGSCの構築が活発化している。一方で、これまで例に挙げた自然災害だけでなく、海外各地での政治的変化や為替変動、労働問題といったさまざまなリスクが今後増大する可能性についても視野に入れておく必要がある。

そこで検討会では今後SCRMを効率的に進めるために、多様なリスク事象について各企業が該当の有無などを簡単に入力することで、重要度の判断や対策の進め方などの補助となるソフトウエア作成を検討している。

重要度判断・対策、簡易ソフト検討

また中小企業のSCRMへの取り組みについては自動車部品、鍛造製品、医療機器など業種の異なる全国7社にヒアリングを通じて調査した。

グローバルサプライチェーンを支える中小の姿が浮き彫りになった（サプライチェーン強化検討会）

東日本大震災後の対応も含めて明らかになったのは、部品メーカーの場合はメーンの納入先である大手メーカーの方針に左右されるが、ある意味で大手に追従すればそれなりの対策を講じることができるということ。半面、中小独自ではSCRMの実施は必要性を感じながらもなかなか困難である状況もわかった。

調査を通じてサプライチェーンの構造が従来一般的に想定されていたようなツリー状ではなく、単純なものでもないことが分かった。またサプライチェーンの全体構造の把握は、中小などの中間サプライヤーだけでなく、最終組み立てを行う大手などでも難しい。しかし、一つの部品が欠けるだけで最終製品の製造が不可能となることから、サプライチェーンに参加するすべての企業がリスク対策を講じておかなければならない。

中小向け簡便手法に

来年以降検討会が構想するソフトウエアは中小企業にも適用可能な簡便なリスク評価手法を提案する考え。グローバルで使えるリスクマネジメント手法を普及させて、世界の製造業が強靭（きょうじん）なサプライチェーンを共有できることを目指す。

㊙モノづくり部品大賞

東芝テックなど45件表彰

記念シンポジウムに先立って行われた「第10回／2013年㊙モノづくり部品大賞」（経済産業省、日本商工会議所後援）の贈賞式では、「大賞」に輝いた東芝テックの「消せるLoopsトナーと低温定着器ユニット」など受賞部品計45件・47社が表彰された。今回の応募総数は前年比約5割増の120件で過去最高。例年同様、入賞は〝激戦〟とあって、受賞企業のトップは感慨もひとしおだった。

「大賞」「モノづくり日本会議共同議長賞」「ものづくり生命文明機構理事長賞」の上位3部品については、その機能・特徴や〝開発ものがたり〟を紹介した映像を会場で流し、注目された。

「大賞」を受賞した「消せるLoopsトナーと低温定着器ユニット」は、コピーした文字などを瞬時に消せる複合機システムの中核部品であり、環境負荷の低減とオフィスワークの合理化への貢献を高く評価した。

「モノづくり日本会議共同議長賞」を受けた小糸製作所の「ADB（配光可変ヘッドランプ）」は、自動車の夜間走行時、対向車などに配慮しつつハイビームでの安心・安全走行を可能にする。「ものづくり生命文明機構理事長賞」を受賞した東芝メディカルシステムズのコンピューター断層撮影装置（CT）向け「AIDR 3D（エイダースリーディー）」は、診断に支障をきたす画像のノイズ成分を抽出するモデルとソフトを開発し、被ばく線量を最大75％削減した。

表彰状を受け取る鈴木東芝テック社長㊧

㊙モノづくり実践

優れた技術と感動の集大成

講評する小口氏

「日本力（にっぽんぶらんど）賞」にはスギノマシンとNTNの2件、「10周年記念賞」にはエコホールディングスと八光の2件が輝いた。また、部品賞は「機械」9件、「電気・電子」5件、「自動車」3件、「環境関連」5件、「健康・医療機器」3件、「生活関連」4件の計29件。さらに奨励賞は計9件選ばれた。

審査アドバイザーを代表して、小口泰平芝浦工業大学名誉学長は「受賞部品は優れた技術と感動の集大成であり、受賞企業は㊙モノづくりを実践している。これは社会の誇りとなり、広く国際的な意義を持つ」と講評を述べた。

「10周年記念賞」を受賞した八光の丸山勝社長は、「世界に先駆けて開発した『胎児シャント』は市場が限られているものの、潜在的ニーズは大きい。『二番煎じ、三番煎じはしない』という基本姿勢にさらに磨きをかける」と決意を新たにしていた。

モノづくり日本会議

がんばる中小企業を応援します！
一日中小企業庁 in ぐんま
～はばたけ！群馬の中小企業～

日時　平成26年1月29日㊌
10：30～19：30（受付開始 9：30）

会場　高崎ビューホテル あかぎ（3階）

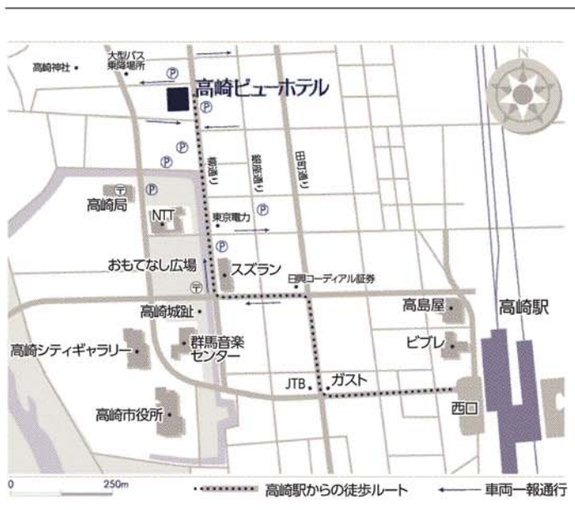
群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」

「一日中小企業庁」とは、中小企業施策の責任者である経済産業省の幹部が各地を訪問して、中小企業者の方々に最新の施策情報をご説明するとともに、皆様との意見交換や交流の場も設けて、今後の中小企業施策をより良いものにして行こうというイベントです。
中小企業者の方々はもちろん、中小企業施策に関心のある方はどなたでも参加できます。中小企業支援機関等の関係者も一堂に会する貴重な機会ですので、是非ご参加ください。

□主催：群馬県、中小企業庁、関東経済産業局　□共催：(独)中小企業基盤整備機構関東本部　□協力：日刊工業新聞社、日本弁護士連合会、群馬弁護士会

10:30～12:00 …【特別講演会～モノづくり日本会議】
13:00～14:15 …【中小企業フォーラム①～中小企業支援施策紹介】
（平成25年度 群馬県優良企業表彰式）
14:30～16:00 …【中小企業フォーラム②～中小企業等との意見交換】
16:15～17:45 …【中小機構フォーラム】
18:00～19:30 …【交流会（会費3,000円）】

併設
10:00～17:00 …【一日中小企業相談室】
9:30～17:00 …【中小企業施策普及コーナー】
9:30～17:00 …【群馬県優良企業表彰　受賞企業紹介】



JR高崎駅下車
▶JR上野駅から特急で 約1時間20分
▶JR東京駅から 上越・長野新幹線で 約50分
▶西口より徒歩 約15分。タクシー 約5分。

▶お車でお越しの方
近隣の駐車場をご利用下さい。

一日中小企業庁inぐんま　検索

お問い合わせ先　群馬県産業経済部産業政策課　電話：027-226-3314
申込方法　ホームページ（http://www.1day-smea.jp/gunma/）にてお申し込みをお願い致します。